

## 「応用調査実習」通年4単位 目的と日程

前期 村瀬 洋一 後期 廣瀬 毅士  
 助教 本田 量久

### 1. 目的

- ・社会調査の実施能力を習得 - 自分で本格的な調査を実施できるように
- ・科学的なデータ分析能力を身につける - 直感や印象での分析でなく

### 2. 主な内容

- ・科学的な無作為抽出のやり方 - 母集団が不明な、ばらまき調査は意味がありません
- ・よい調査票の作り方 - あいさつ文や質問文によって、回収率は大きく変わります
- ・コーディングなどデータ整理とデータファイルの作成法など - データ行列とは何か
- ・適切なデータ分析法 - 調査したけど分析せず、とならないよう

この科目では、紙はできるだけ配布しない主義なので、各自でノートをとるように。自分でノートをとることはとても重要です。

SPSSなどの統計ソフトを用いた統計分析については、この科目では時間の都合上、基本的なことののみを行います。より高度な分析法は、「多変量解析」や統計学関連の科目で学んでください。

### 3. 日程（予定 前期13、後期13回）

- 4月16日 1 今後の予定 『社会調査演習』 1.2 調査の企画  
 課題 『社会調査演習』1章を読み感想をeメールで送信（締切4/21）。  
 携帯メールでも良いが必ず教員からの[パソコンメールを受信できるアドレス](#)で。タイトルに名前と学生番号を書くこと。
- 4月23日 2 仮説作り、SPSSの基礎： 単純集計と基本統計
- 4月30日 3 『社会調査演習』2.5 コウディング（職業分類）  
 \*\*\*\*\* 連休中 \*\*\*\*\*
- 5月 7日 4 SPSSでのクロス集計、シンタックス使用
- 5月14日 5 SPSSでの変数の加工1： カテゴリー合併、エクスポート機能での出力保存
- 5月21日 6 SPSSでの変数の加工2： 複数変数の計算と新変数作成、3重クロス集計
- 5月28日 7 SPSSでの変数の加工3： ダミー変数、財産カテゴリー変数等の作成
- 6月 4日 8 クロス集計結果の発表会
- 6月11日 9 相関係数、単回帰分析
- 6月18日 10 SPSSでの重回帰分析
- 6月25日 11 SPSSでの分散分析
- 7月 2日 12 SPSSでの因子分析
- 7月 9日 13 分析結果発表会、『社会調査演習』2.10 聴き取り調査

- 9月24日 1 『社会調査演習』2.9 調査票の作成  
テーマを決め、関連研究収集
- 10月 1日 2 『社会調査演習』2.7 評定法・序列法・一対比較法
- 10月08日 3 質問項目の検討
- 10月15日 \*\*\*\*\* 体育祭 \*\*\*\*\*
- 10月22日 4 第1回進捗状況報告会（調査テーマ、内容、質問項目について各班が発表）
- 10月29日 5 調査票案を完成、プリテスト 調査実施法の説明  
\*\*\*\*\* 秋休み \*\*\*\*\*
- 11月 5日 6 プリテスト結果を踏まえ調査票最終版を完成
- 11月12日 7 調査開始
- 11月19日 8 『社会調査演習』2.1 個人の無作為抽出（系統抽出法）
- 11月26日 9 『社会調査演習』2.2 地点の無作為抽出（確率比例抽出法）
- 12月 3日 10 第2回進捗状況報告会（回収状況、調査時の反応などについて各班が発表）
- 12月10日 11 分析結果のまとめ方（表やグラフ、レポートの書き方）
- 12月17日 12 データファイル作成と調査経験の報告  
\*\*\*\*\* 冬休み \*\*\*\*\*
- 1月14日 13 分析結果発表会

#### 4．成績評価

課題と講義時間内の発表と実習への参加を総合的に評価。未提出の課題が1つでもあった場合は単位は出ないので注意。

『社会調査演習』各章の課題 - 作業60点、問題40点で採点。とくに問題についてよく考え、自分独自の考えを書いた場合、高評価となる。

分析実習については、適切に分析結果をまとめた上で、結果の解釈や結論について、自分独自の意見を書いた場合、高評価となる。

#### 5．面会時間、ホームページとeメール [murase rikkyo.ac.jp](http://www2.rikkyo.ac.jp/murase)

村瀬の研究室は12号館3階、助手室は2階です。ふだんは講義や会議のためかなり多忙なので、来訪の際は、メールで予約してください。村瀬の面会時間（office hour：木曜日12:30-1:30）は、予約なしに自由に来てください。

eメールでの課題提出や連絡をするので、メールを使えるようになっておいてください。ホームページに実習の最新情報を掲載するので参照のこと。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase>

#### 6．テキストと参考書の解説

テキストは、講義中に随時活用するので、各自で必ず購入すること。参考文献も、自分が興味を持てるものができる限り購入し、自宅で読みたいときにすぐ読める状態にしておいてください。

学生時代は贅沢はつつしむ一方、本代と食事代は惜しまないことをおすすめします。本

代は知識を、食事代はあらゆる仕事の基礎となる体力を養うために必要です。

## 6.1. テキスト

原純輔・海野道郎．2004．『社会調査演習 第2版』東京大学出版会．

社会調査の実施に必要な技法について、標本抽出からコーディングまで、解説と練習問題がある。この本の練習問題をもとに実習を行えば、統計的社会調査の実施法は、かなりの程度身につくだろう。エラボレイションなどの分析法の解説もある。

## 6.2. 参考書（著者のアルファベット順 文献リストは著者名と発行年を最初に書く）

馬場浩也．2005．『SPSSで学ぶ統計分析入門 第2版』東洋経済新報社．

ボンシュテット&ノーキ著 = 海野道郎・中村隆監訳．1990．『社会統計学 - 社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社．

原純輔ほか編．2000．『日本の階層システム』1～6巻．東京大学出版会．

日本の3大社会調査の1つであるSSM調査の最新成果をまとめた本

井上文夫・井上和子・小野能文．1991．『よくわかる社会調査の実践』ミネルヴァ書房．

井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代．1995．『よりよい社会調査をめざして』創元社．

郵送調査の具体的な実施法の記述は分かりやすい。

狩野裕．1997．『グラフィカル多変量解析』現代数学社．

共分散構造分析の解説書。AMOSやEQSの操作法が分かりやすい。

片瀬一男編．2007．『社会統計学』放送大学教育振興会．

岸学．2005．『SPSSによるやさしい統計学』オーム社．

栗田宣義編．1996．『メソッド/社会学』川島書店．

栗田宣義編．1998．『データブック/社会学』川島書店．

戦後日本の代表的な社会調査データについて解説。

村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士．2007．『SPSSによる多変量解析』オーム社．

SPSSによる分析について分析法の考え方と具体例が豊富。

内閣総理大臣官房広報室編『世論調査年鑑：全国世論調査の現況』大蔵省印刷局．

日本でどのような調査が行われたかの報告書 毎年発行

直井優編．1983．『社会調査の基礎』サイエンス社．

少し古いが社会調査法についてよくまとまっている。

直井優他編．1990．『現代日本の階層構造』1～4巻．東京大学出版会．

NHK放送文化研究所世論調査部編．1996．『世論調査事典』．東京：大空社．

調査の紹介、調査手法について詳しく記述がある。倫理、著作権についても記述。

西田春彦・新睦人編．1976．『社会調査の理論と技法 - アイディアからリサーチへ』川島書店．

大谷信介編．1999．『社会調査へのアプローチ - 論理と方法』ミネルヴァ書房．

巻末 参照してほしい100冊の文献セレクション

小野寺孝義・山本嘉一郎編．2004．『SPSS事典』ナカニシヤ出版．

佐藤郁哉．1992．『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』新曜社．

盛山和夫．2004．『社会調査法入門』有斐閣

タイトルと違って中身はやや難しいが、充実した内容

谷岡一郎．2000．『「社会調査」のウソ - リサーチ・リテラシーのすすめ』文芸春秋．  
 調査の実態や問題のある調査について、具体例を挙げて説明。わかりやすい新書。

統計数理研究所国民性調査委員会編．1992．『第5 日本人の国民性』出光書店．  
 日本の3大調査の1つである国民性調査結果

辻新六・有馬昌宏．1987．『アンケート調査の方法 - 実践ノウハウとパソコン支援』．  
 朝倉書店．

山際勇一郎・田中敏．1997．『ユーザーのための心理データの多変量解析法』教育出版．  
 初心者向けに、SASによるさまざまな多変量解析法を分かりやすく解説している

渡部洋編．1988．『心理・教育のための多変量解析法入門 基礎編』福村出版．  
 分析法について、初心者向けに分かりやすくまとまっている。

安田三郎・原純輔．1982．『社会調査ハンドブック（第3版）』有斐閣．  
 同様のタイトルの本は多数あるが、この本が内容的にもっとも整備されている。ただし、改訂が繰り返されてはいるが、もはや少し古い部分がある。

安田三郎・海野道郎．1977．『改訂2版 社会統計学』丸善．

ハンス=ザイゼル．1985=2005．『数字で語る - 社会統計学入門』新曜社．

1995年SSM調査研究会．1998．『1995年SSM調査シリーズ』第1～21巻．1995年SSM調査研究会．  
 1995年SSM調査の報告書論文集。日本の社会階層研究に関する最先端の研究結果が掲載されている。web上で閲覧可。

## 7．仮説を作るには

### 7.1. 調査の企画 研究目的を明確に書くことが基本

調べたい概念、仮説を決め、方法を選択

概念 個人主義、平等志向という基本的価値観、環境配慮行動、など

概念そのものを測ることはできないが、研究上では重要。

テキスト図1.3 (p.17)

### 7.2. 仮説の例 - 原因と結果の2変数を含む文を作る

- ・若い人ほど個人主義的である
  - ・農村部ほど平等を好む
  - ・金持ちほど「環境にやさしい」商品を買うのではないか
- これらは、因果関係を含む文である。

### 7.3. 概念の具体化（操作化） 質問項目の作成

個人主義、平等志向、環境配慮行動などの概念を、どう測定するか考え、質問項目を作る。 農村部も様々な定義がありうる。

調査方法を決定する。面接法か留め置き法かなど。

調査が終わりデータが完成したら、仮説をもとに分析する。

分析結果を、調査報告書、論文、本などにまとめる。

**統計的社会調査実施の具体的手順**  
- 「生活と環境に関する仙台市民意識調査」を例として -  
村瀬 洋一

## 1. 社会調査の概説

### 1.1. 社会からデータをとるにはどのような方法があるか

- 1) 調査 - 社会学に多い
- 2) 実験 - 心理学に多い
- 3) 観察 - 人類学や教育学に多い
- 4) 内容分析 - content analysis: 文章や映像の内容を数量化して分析
- 5) マクロデータの利用 - 各種の統計年鑑や白書、総務省統計局ホームページ  
村瀬ゼミリンク集などを参照

### 1.2. 標本抽出法の種類 - 無作為抽出はなぜ大切か

(別紙参照 末長俊郎編・1987・『社会心理学研究入門』p.135)

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| よい調査とは | 母集団を確定できるもの              |
| ばらまき調査 | 何が対象か分からない、社会のごく一部、かつ偏り大 |

母集団を確定するためには、無作為抽出が必要

無作為抽出をしない調査だと、暇な人(時間に余裕がある人)、お金に余裕がある人など、何らかの側面で恵まれた人ばかりの回答が集まることになる。また、高学歴の人ほど学問的調査には協力的である。結果として、若い男性や仕事で忙しい人、低学歴の人などがとても少ないデータとなる。

#### 1.2.1. 単純無作為抽出法

#### 1.2.2. 系統抽出法

#### 1.2.3. 確率比例二段(多段)抽出法

#### 1.2.4. 層化

### 1.3. よい調査票を作るコツ

#### 1) 回答者が答えやすいよう、質問文を分かりやすく

普段字を書かない職業の人にも答えられるように。高度に理論的な質問は避ける。

#### 2) ストーリーのある調査票を作る

答えやすい質問から初め、次に一般的質問、次に個別的質問、など

#### 3) 原因となる変数を充実

自分が調べたい問(被説明変数)だけでなく、分析する際に使う、原因となる変数(説明変数)を豊富に入れる。基礎項目、意識、自由時間やその他の資源などが重要。

仮説にもとづいた質問、疑似相関に注意(テキスト原・海野(2004:84)を参照。

#### 4) あまり多くの問を詰め込まない - 始めに調査票の最大ページ数を設定する

課題 自分で調査目的と仮説を設定し、そのために必要な質問項目を考えてみよう！  
ホームページ上の掲示板に書き込む

まず、仮説（原因と結果を含む文）をいくつか考える。次に仮説を元に、説明変数と被説明変数となる質問項目を設定する。説明変数を複数考える。性別や年齢の他に、どのような説明変数があると良いだろうか。

## 2. 調査の実際 - 「生活と環境に関する仙台市民意識調査」実施の手順

### 2.1. 調査組織

東北大学、立教大学ほか数大学の研究者グループ(生活環境研究会)。

社会階層と社会移動全国調査(SSM調査:Social Stratification and Social Mobility Servey)などのように、全国組織で行うこともある。

### 2.2. 調査企画を立てる(調査全体のデザイン)

企画書を作り、調査の目的、内容、方法を明確にし、周囲に知らせる。

以下の内容を、企画書に盛り込む。

#### 2.2.1. 調査目的 - 調査によって、何を明らかにしたいのか。

社会の中の問題の一つとして環境問題をとらえ、解決法を探る。

#### 2.2.2. 調査項目

- |                |           |
|----------------|-----------|
| ・基本属性          | ・ごみ捨て行動   |
| ・一般的態度         | ・政策への対処行動 |
| ・ごみ処理費用の負担の公平感 | ・消費行動     |

#### 2.2.3. 実査の計画

##### 1) 調査法

郵送留め置き法

##### 2) 調査対象(母集団)

2005年7月1日現在、各市の住民基本台帳に記載されている全世帯(個人でなく世帯対象)

##### 3) 抽出方法

2段無作為抽出法(確率比例抽出法)

50の小校区(第一次抽出単位)から30人(第二次抽出単位) 対象者は計1500人

##### 4) 調査時期

例 11月12日(金)-11月15日(月) . . . . 対象地による。さらに長いことも。

人事異動の時期、休暇の時期、月末、決算期、農繁期など、人々が忙しく留守がちな時期は避ける。

#### 2.2.4. 調査の効用

調査によって、何がわかり、どのような利点があるか。

### 2.3. 資金調達

無作為抽出を行うと、かなりの予算がかかる。この調査は約200万円を使用。

文部省科学研究費、財団などへ申請。財源が確保されたら、予算の制約に合わせて企画を再調整。現実には、予算に合わせて調査法や対象などを修正

## 2.4. 調査内容と関係の深い組織、個人との協力

調査内容と関係の強い部署には、必ず事前に連絡し、調査協力を取り付ける。

## 2.5. 調査票の設計（質問項目全体のデザイン）

- ・ ストーリーがある調査票を作る。流れが分かりやすく、回答者が疲れないように。
- ・ 質問文のワーディングはとても大切（テキストp.136-参照）。
- ・ 尺度を統一（テキストp.112）

回答の種類（4段階の選択肢が多い） 5段階など中間があるものは良くない

## 2.6. 回収 高回収率が重要

誤答効果と回答バイアス(宮野.1986)に注意

一人暮らしの多い地域は、対象者に会えず、回収率が下がることが多い

## 2.7. データファイルの作成

データの例 - 行が個人、列が変数となる数字の行列

```
0101 142123 231213322 010110110011010010 1000000002 411000000112 2000012
      10000010102221 3344324000000000001 24222142313 010010000001 3255
0102 235143 142213322 100111010011010010 1000000002 411000000112 2000012
      10101010102221 2232324000000000001 32222142313 011010011001 3243
```

データ分析とは、実際には、このようなデータ行列の分析を行っているのである。分析には、エクセルなどの表計算ソフトの他、より高度な統計分析ソフトを用いる。

### 2.7.1. エディティング

### 2.7.2. コーディング

### 2.7.3. データインプット

## 2.8. 分析

単純集計とクロス集計

平均値や分散を見る（基本統計量）

多変量解析（3つ以上の変数を用いて分析）

重回帰分析、分散分析、因子分析

構造方程式モデル（共分散構造分析、パス解析 - 重回帰分析と因子分析の発展版）

数量化理論、HLM（マルチレベル分析）、クラスター分析、ログリニア分析

## 2.9. 分析結果の公表

調査報告書 - 生活環境研究会(2007)など

学術論文 - 篠木(2002)など

単行本 - 現在準備中

生活環境研究会ホームページにも情報がある。

[http://www.sal.tohoku.ac.jp/behavsci/WorkGroups/life-env/index\\_j.html](http://www.sal.tohoku.ac.jp/behavsci/WorkGroups/life-env/index_j.html)

### 3. 調査準備として必要なこと

- 1) 高回収率のための工夫 お願い状の作成、調査員の訓練 (テキスト3.5参照)
- 2) 周囲への挨拶
- 3) 無作為抽出 (サンプリング) を適切に - 地区別人口の表を入手 (テキスト3.3参照)  
これらが準備できれば、まずは問題ない
- 4) 予算と、やる気のある人の確保 もっとも重要、初めにやること

### 4. 調査現場での具体的な工夫

- ・ お願い状 事前に送る。公的な文書のように、低姿勢で丁寧な文面。角印を押し、最後に1行手書きで付け加えるなど工夫。
- ・ 調査員の訓練 説明会、調査員の手引き作成。  
調査会社への委託時はとくに注意。お礼状をこちらから送るなど。
- ・ 問い合わせ電話 携帯電話でなく、必ず研究室等の電話を明記し対応
- ・ 予備調査を必ずやる 分かりにくい質問、予想外の回答のチェック

### 参考文献

- 阿部晃士・小松洋・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎．1993．「公平な費用負担原理と公平感 - ごみ収集・処理の費用負担をめぐって」．『社会学年報』22:103-119．東北社会学会．
- 阿部晃士・村瀬洋一・中野康人・海野道郎．1995．「ごみ処理有料化の合意条件 - 仙台市における意識調査の計量分析」．『環境社会学研究』1:117-128．環境社会学会．
- 原純輔・海野道郎．2004．『社会調査演習 第2版』東京大学出版会．
- 小松洋・阿部晃士・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎．1993．「地域的コミュニケーションが環境保全行動に及ぼす影響 - 家庭ごみ排出行動と近所づきあいの関連について」．『社会学研究』60:115-135．東北社会学研究会．
- 宮野勝．1986．「誤答効果と非回答バイアス:投票率を例として」．『理論と方法』Vol.1:101-114．ハーベスト社．
- 村瀬洋一・阿部晃士・中野康人・海野道郎．1995．「ごみ処理施設建設政策への仙台市民の政治参加行動 - 自由回答形式非定型データの計量分析」．『日本文化研究所研究報告』東北大学文学部日本文化研究施設．別巻第32集:37-51．
- 中野康人・阿部晃士・村瀬洋一・海野道郎．1996．「社会的ジレンマとしてのごみ問題 - ごみ減量行動協力意志に影響する要因の構造」．『環境社会学研究』2:123-139．環境社会学会．
- 中野康人・阿部晃士・村瀬洋一・海野道郎．1996．「環境問題の社会的ジレンマ - ごみ減量問題を事例として」．『社会学研究』63:109-134．東北社会学研究会．
- 生活環境研究会．1994a．『生活と環境に関する仙台市民意識調査 報告書』仙台市環境局．
- 生活環境研究会．1994b．『生活と環境に関する仙台市民意識調査 資料』仙台市環境局．
- 生活環境研究会．2007．『廃棄物をめぐる人間行動と制度 - 環境問題解決の数理・計量社会学』東北大学大学院文学研究科．
- 篠木幹子．2002．「リサイクル行動と正当化のメカニズム 態度と行動の矛盾の解消に関する検討」．『社会学評論』53:85-100．日本社会学会．
- 海野道郎編．2001．『リサイクル行動の計量社会学的研究 合理的選択理論を基礎として』科学研究費補助金研究成果報告書 東北大学文学部．
- 海野道郎・篠木幹子・荒井貴子．2002．「リサイクル行動を促すもの 地域移動歴との関係から促進メカニズムを探求する」．『社会学研究』72:21-41．東北社会学研究会．